

## <本書のコンセプト>

本書の目的：	中学英語の定着です。
中学英語の理由：	中学英語は高校で定着させる必要があります。中学英語が定着していなければ、高校英語も身につけません。
定着の方法：	音声に対する素早いリアクションで英文を作る訓練をします。
この方法にする理由：	一定の速度以上で読めたり話せなければ定着しているとは言えないからです。

### なぜ中学英語？

この教材の目的は中学英語（文法）の定着にあります。高校教材なのになぜ中学英語なのでしょう。その理由は、中学校で習う英語は中学卒業までに十分定着することはないからです。中学校で習った文法規則などの多くは、高校で学習を続ける中で少しずつ定着してゆくものです。中学校のことは中学校で完成しているのだから、高校では中学では習っていないことだけを学ぶ、というのでは、高校英語も身につけません。

### 定着させるためには？

知っているけれど使えない。使えるけれど時間がかかる。これでは、定着しているとは言えません。1文を作り出すのに数十秒かかってしまう。超スローでなければ英文が読めない。といった現象は定着していないことの証拠です。

大学入試突破にも欠かせない中学英語の定着を目指すには、網羅的な復習をするより、重要な事項に絞って、音声でスピーディに処理できるようリアクション・トレーニングをするのが効果的です。トレーニングはくりかえし、くりかえし行わなければいけません。基礎編でした練習をこの応用編でも繰り返します。応用編でも扱う文法はほぼ同じですが、スピードはアップしています。やってみてください。

### 中学英語の定着なしに高校英語なし、そして、大学入試突破もなし

中学英語の定着なしに高校英語を導入しても、身になりません。家を建てる時、土台もない、柱もないのに、床を張ったり、壁を塗ったりはできません。英語学習も同じです。中学英語という土台がないところへ、高校英語というものを乗せようとしても崩れてしまいます。中学英語という土台をしっかりと固めましょう。本書はそのお手伝いをします。

## <目次 Contents>

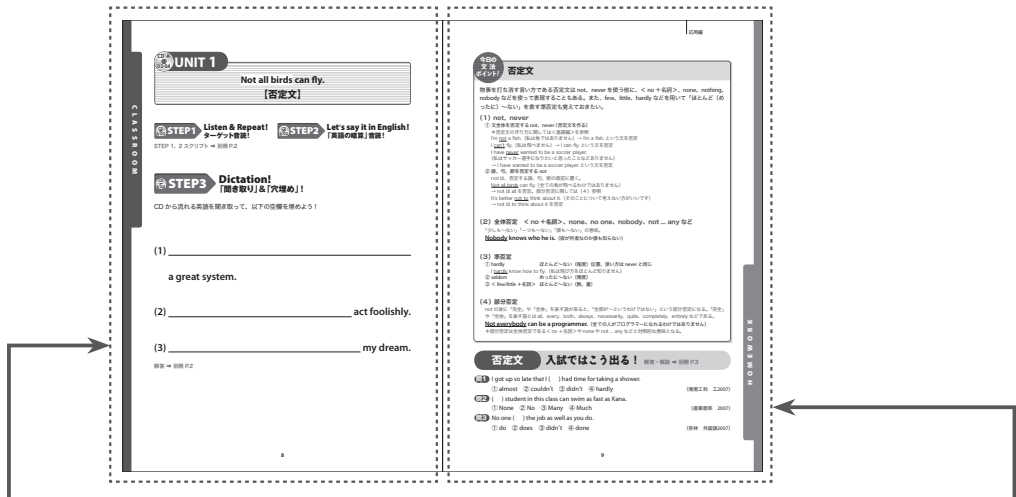
本書のコンセプト	1
本書の使い方	4
UNIT 1 否定文	8
UNIT 2 疑問文	10
UNIT 3 受動態	12
UNIT 4 修飾—前置詞による後置修飾	14
UNIT 5 修飾—to doによる後置修飾	16
UNIT 6 修飾—分詞による後置修飾	18
UNIT 7 関係代名詞—主格、所有格	20
UNIT 8 関係代名詞—主格、所有格、目的格	22
UNIT 9 間接疑問文、感嘆文	24
UNIT 10 付加疑問文、間接疑問文、感嘆文	26
UNIT 11 等位接続詞	28
UNIT 12 従位接続詞	30
UNIT 13 動詞の目的語になるthat節	32

UNIT 14	時制—現在形	34
UNIT 15	時制—過去形	36
UNIT 16	時制—進行形	38
UNIT 17	時制—現在完了形	40
UNIT 18	時制—過去完了形	42
UNIT 19	助動詞	44
UNIT 20	動名詞	46
UNIT 21	分詞構文を使った表現	48
UNIT 22	比較表現	50
UNIT 23	知覚動詞	52
UNIT 24	使役動詞	54
UNIT 25	仮定法過去	56
UNIT 26	仮定法過去完了	58
UNIT 27	複合関係詞	60

## <本書の使い方>

本書は CLASSROOM と HOMEWORK という 2 つのパートに分かれます。CLASSROOM パートは、CD を使った約 5 分間の文法レッスン。口と頭をフルに動かして文法を定着させるアクティブな活動です。また、HOMEWORK パートは文法解説と入試問題、家や教室の机上で学習するのに適しています。

もちろん CLASSROOM、HOMEWORK とともに、学校の授業や家庭での学習といった分け隔てなく、どこでも学習することが可能です。CD の音声を iPod などに入れれば通学中にトレーニングをすることも可能です。



### < CLASSROOM >

CD から流れる音声に反応（リアクション）して、「リピート」、「英作文（英語の暗算）」、「ディクテーション」の活動をします。英文法の「コア」となる形を体に取り込み、英文を自分で組み立てる力を養い、文法を「定着」させるトレーニングです。またこの3つを約5分という制約の中で行うため「英語の処理スピード」の向上につながります。

#### STEP1 Listen & Repeat! ターゲット音読!

ターゲットとなる文法を含む英文を聞いて、リピートします。 →学習法は P.5 へ!

#### STEP2 Let's say it in English! 「英語の暗算」音読!

日本語を聞いて、頭で英語を組み立て、言ってみます。 →学習法は P.6 へ!

#### STEP3 Dictation! 「聞き取り」& 「穴埋め」!

英語を聞いて、テキストの空欄を埋めます。 →学習法は P.7 へ!

### < HOMEWORK >

そのユニットのワンポイント文法解説と、そのユニットで学習した文法項目が問われている入試問題の過去問題が掲載されています。ワンポイント解説を読んで、音で学習したことの補強・おさらいをし、過去問題を解いてどのように入試問題で出題されるかを知りましょう。授業中に先生の指示のもとに学習するもよし、または家で宿題や独学としてやるもよし、このパートの使い方のスタイルは様々です。答え合わせは別冊で行います。

## ■ STEP1 Listen & Repeat! ターゲット音読! ■

STEP1～3はCDから流れる音声に従ってトレーニングをします。STEP1はそのユニットで学ぶ文法(ターゲット文法)を含む英文を聞いてそれをリピートしてみる活動です。音読とありますが、スクリプトを見ずに行います。応用編の音声スピードは約160～170wpmです。

CDを使ったSTEP1のトレーニングの流れ

例) UNIT 1



CD	活動	みなさん
<p data-bbox="185 550 450 647">私は泳げます、しかし私は魚ではありません。</p> <p data-bbox="185 691 470 788">I can swim, but I'm not a fish. × 2</p> <p data-bbox="185 898 353 994">Now, repeat! I...</p> <p data-bbox="185 1309 299 1387">ポーン♪</p>	<p data-bbox="514 560 806 589">(1) 日本語で文が流れます。</p> <p data-bbox="514 695 884 840">(2) その文の英語が2回流れます。この時、どんな文法項目を学習しているのかを強く意識して聞きましょう。</p> <p data-bbox="514 908 884 1014">(3) "Now, repeat!" という合図と、リピートする文の冒頭の単語や句が読まれます。</p> <p data-bbox="514 1072 884 1265">(4) (3) を聞き終わったら、頭からリピートしましょう。冒頭の単語(この場合I...)に重ねて発音するのではなく、無音になったところから、頭から発音します。</p> <p data-bbox="514 1323 884 1477">(5) ポーンという音が流れ、次の文に移ります。これを5～7文繰り返します (UNITによって文の数が違います)</p>	<p data-bbox="919 1072 1210 1168">I can swim, but I'm not a fish.</p>

■ STEP2 Let's say it in English! 「英語の暗算」音読! ■

STEP2 は日本語を聞いて英語に直してみる、言わば「英語の暗算」のようなトレーニングです。STEP1 でリピートした文法項目や表現を使った文しか出題されませんので、頭をフル回転させ、文を組み立ててみましょう。音読とありますが、スクリプトを見ずに行います。完璧に言えなくても OK です。とにかく声に出して、思った英語をなんでも言うてみるのが重要です。

CD を使った STEP2 のトレーニングの流れ

例) UNIT 1



CD	活動	みなさん
<p data-bbox="152 575 463 639">私はサッカー選手になりたい と思ったことなどありません。</p> <p data-bbox="152 662 340 697">音楽♪ (約5秒)</p> <p data-bbox="152 1089 463 1161">I have never wanted to be a soccer player. × 2</p> <p data-bbox="152 1315 316 1392">Now, repeat! I ...</p> <p data-bbox="152 1663 257 1734">ポーン♪</p>	<p data-bbox="491 575 783 600">(1) 日本語で文が流れます。</p> <p data-bbox="491 662 760 687">(2) 音楽が流れ始めます。</p> <p data-bbox="491 716 861 1064">(3) 音楽が流れている間に (1) で聞いた日本語に対応する英語を自分で考えて、言ってみます。音楽が止まるまで、自分のアイデアを全て出しつくしてみましょう。クラス全員声をそろえて発話するわけではないので、隣の友達と相談してもいいですし、とにかくぶつぶつとでも声に出して言うてみるのが重要です。</p> <p data-bbox="491 1089 861 1296">(4) 正解が流れます (×2回)。自分が言った英語が合っていたか確認します。この時、冠詞や複数形などの「細かい所」より、「文の形」を強く意識しましょう。正しいスクリプトは後で別冊で確認しましょう。</p> <p data-bbox="491 1321 861 1421">(5) “Now, repeat!” という合図と、リピートする文の冒頭の単語や句が読まれます。</p> <p data-bbox="491 1447 861 1653">(6) STEP 1 と同じ手順でリピートしましょう。(5) を聞き終わったら、頭からリピートします。冒頭の単語 (この場合 I ...) に重ねて発音するのではなく、無音になったときに、頭から発音します。</p> <p data-bbox="491 1678 861 1808">(7) ポーンという音が流れ、次の文に移ります。これを 2~4 文繰り返します (UNIT によって文の数が変わります)。</p>	<p data-bbox="889 703 1190 826">I ... have? 「ことなどない」 だから、I have never ... wanted to ...</p> <p data-bbox="889 1437 1195 1528">I have never wanted to be a soccer player.</p>

### ■ STEP3 Dictation! 「聞き取り」 & 「穴埋め」! ■

STEP3 は英語を聞き取って、テキストの空欄部分を埋めるトレーニングです。その UNIT で何度か出てきた表現を使った英文が流れます。答え合わせは家で、あるいは授業の流れの中で、別冊でします。

CD を使った STEP3 のトレーニングの流れ

例) UNIT 1



CD	活動	みなさん
<p>Number 1</p> <p>Not all programmers can make a great system.</p> <p>音楽♪ (約 13 秒)</p> <p>Not all programmers can make a great system.</p> <p>Not all programmers can make a great system.</p> <p>Number 2</p> <p>That's all for today!</p>	<p>(1) 英語が流れます。</p> <p>(2) 音楽が流れ始めます。</p> <p>(3) テキストの空欄を埋めます。 音楽が流れている間に (1) で聞いた英語がさらに 2 回流れます。 1 回で聞き取れなかった人はこれをヒントにして書き取ってみましょう。</p> <p>(4) 次の文が流れます。</p> <p>(5) これを 2～3 文繰り返します (UNIT によって文の数が違います)。 答え合わせは、家で、あるいは授業の流れの中で、別冊解答・解説を見てやりましょう。どんな部分が聞き取れなかったのかをきちんと確認しましょう。</p> <p>(6) この日のトレーニングは終了です。</p>	<p>聞き取った英語をテキストの空欄に書き込む。</p>

#### ■ CD に関する注意書き

- 弊社制作の音声 CD は、CD プレーヤーでの再生を保証する規格品です。
- パソコンでご使用になる場合、CD-ROM ドライブとの相性により、ディスクを再生できない場合がございます。ご了承ください。
- パソコンでタイトル・トラック情報を表示させたい場合は、iTunes をご利用ください。iTunes では、弊社が CD のタイトル・トラック情報を登録している Gracenote 社の CDDDB (データベース) からインターネットを介してトラック情報を取得することができます。
- CD として正常に音声再生できるディスクからパソコンや mp3 プレーヤー等への取り込み時にトラブルが生じた際は、まず、そのアプリケーション (ソフト)、プレーヤーの製作元へご相談ください。

CD・A  
02-04

## UNIT 1

**Not all birds can fly.**

【否定文】

CD  
A-02

STEP1

Listen & Repeat!  
ターゲット音読!

STEP 1、2 スクリプト → 別冊 P.2

CD  
A-03

STEP2

Let's say it in English!  
「英語の暗算」音読!CD  
A-04

STEP3

Dictation!  
「聞き取り」&「穴埋め」!

CD から流れる英語を聞き取って、以下の空欄を埋めよう!

(1) \_\_\_\_\_

a great system.

(2) \_\_\_\_\_ act foolishly.

(3) \_\_\_\_\_ my dream.

解答 → 別冊 P.2



今日の  
文法  
ポイント!

## 否定文

物事を打ち消す言い方である否定文は not、never を使う他に、< no + 名詞 >、none、nothing、nobody などを使って表現することもある。また、few、little、hardly などを用いて「ほとんど（めったに）～ない」を表す準否定も覚えておきたい。

## (1) not、never

① 文全体を否定する not、never (否定文を作る)

\* 否定文の作り方に関しては < 基礎編 > を参照

I'm not a fish. (私は魚ではありません) → I'm a fish. という文を否定

I can't fly. (私は飛べません) → I can fly. という文を否定

I have never wanted to be a soccer player.

(私はサッカー選手になりたいと思ったことなどありません)

→ I have wanted to be a soccer player. という文を否定

② 語、句、節を否定する not

not は、否定する語、句、節の直前に置く。

Not all birds can fly. (全ての鳥が飛べるわけではありません)

→ not は all を否定。部分否定に関しては (4) 参照

It's better not to think about it. (そのことについて考えない方がいいです)

→ not は to think about it を否定

## (2) 全体否定 &lt; no + 名詞 &gt;、none、no one、nobody、not ... any など

「少しも～ない」「一つも～ない」「誰も～ない」の意味。

**Nobody knows who he is.** (彼が何者なのか誰も知らない)

## (3) 準否定

① hardly                      ほとんど～ない (程度) 位置、使い方は never と同じ

I hardly know how to fly. (私は飛び方をほとんど知りません)

② seldom                      めったに～ない (頻度)

③ < few/little + 名詞 >      ほとんど～ない (数、量)

## (4) 部分否定

not の後に「完全」や「全体」を表す語が来ると、「全部が～というわけではない」という部分否定になる。「完全」や「全体」を表す語とは all、every、both、always、necessarily、quite、completely、entirely などである。

**Not everybody can be a programmer.** (全ての人がプログラマーになれるわけではありません)

\* 部分否定は全体否定である < no + 名詞 > や none や not ... any などと対照的な意味となる。

## 否定文

## 入試ではこう出る!

解答・解説 → 別冊 P.3

問1 I got up so late that I ( ) had time for taking a shower.

① almost    ② couldn't    ③ didn't    ④ hardly

(湘南工科 工2007)

問2 ( ) student in this class can swim as fast as Kana.

① None    ② No    ③ Many    ④ Much

(産業能率 2007)

問3 No one ( ) the job as well as you do.

① do    ② does    ③ didn't    ④ done

(杏林 外国語2007)